

5. 2020年度 太田看護専門学校 自己点検・自己評価結果

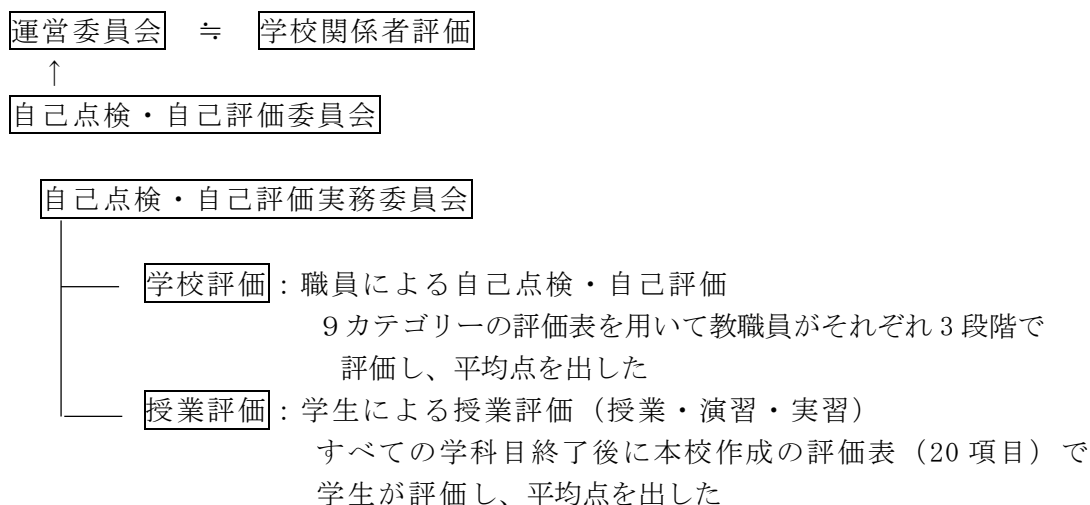
1 自己点検・自己評価目的

本校の教育活動および学校運営の状況についての評価を行い、運営の改善点を明らかにし教育水準の向上並びに設置目的を達成するために組織的・継続的に取り組むことを目的とする。

2 実施方法

学校評価は厚労省の「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を基に、9カテゴリーの評価表を用いて教職員がそれぞれ3段階評価し、平均点を出して考察した。授業評価については、すべての学科目終了後に本校作成の評価表（20項目）で学生が評価し、平均点を出して考察した。

3 自己点検・自己評価委員会組織及び概要



4 自己点検・自己評価

① 学校評価の結果

3：できている 2：まあまあできている 1：あまり若しくはできていない（最大3）

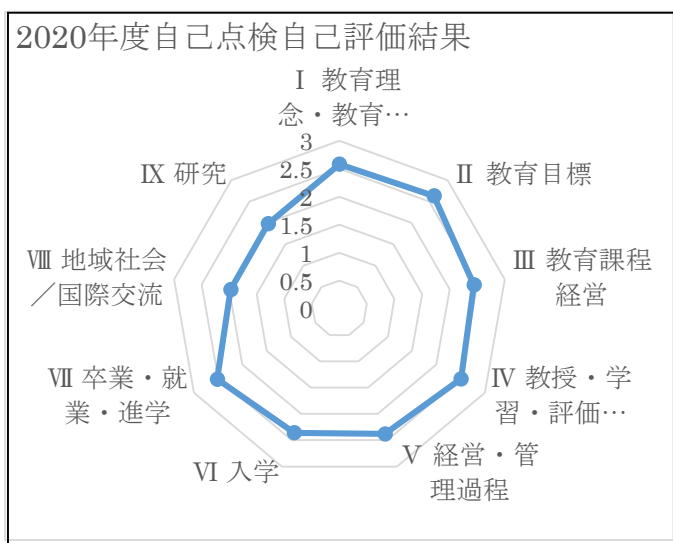


表1 2020年度自己点検自己評価結果

項目	9カテゴリー	2020年度	2019年度
I	教育理念・教育目的	2.58	2.70
II	教育目標	2.63	2.75
III	教育課程経営	2.44	2.52
IV	教授・学習・評価過程	2.51	2.46
V	経営・管理過程	2.38	2.49
VI	入学	2.36	2.40
VII	卒業・就業・進学	2.52	2.49
VIII	地域社会／国際交流	1.97	1.87
IX	研究	1.98	1.87

図1 2020年度自己点検自己評価結果

②授業評価の結果

					2020年度	
【学校集計】						
学校名: 太田看護専門学校						
		質問番号	質問内容	2020年度	2019年度	
授業内容 と構成	1	教育目標と科目のつながりが理解できた。		3.73	3.78	
	2	授業の要点が分かりやすかった。		3.71	3.74	
	3	授業の結論が明確だった。		3.71	3.75	
	4	学生への質問の内容・量は適切だった。		3.72	3.77	
教育技法	5	説明の際の用語や事例は適切だった。		3.75	3.79	
	6	教材の使用は適切だった。		3.75	3.79	
	7	教員からの一方的な講義ばかりではなく、学生も参加できた。		3.70	3.75	
	8	教員は学生を尊重した態度で接していた。		3.75	3.78	
	9	教員自身の意見や考えを適度に現していた。		3.77	3.80	
	10	教員の説明は、具体的でわかりやすかった。		3.72	3.75	
	11	教員の声は聞き取りやすかった。		3.76	3.79	
	12	教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進めていた。		3.71	3.73	
	13	課題の量は適切だった。		3.73	3.77	
	14	課題には意欲的に取り組んだ。		3.75	3.77	
学生自身の 評価	15	課題は授業の理解に役だった。		3.76	3.78	
	16	授業には興味を持って取り組んだ。		3.74	3.76	
	17	授業には集中して取り組み、準備物を忘れたこともなかった。		3.72	3.72	
	18	自分の授業態度は、私語や居眠りなどはなかった。		3.64	3.61	
	19	わからないことは自分から質問したり自己学習をしたりして解決に努めた。		3.59	3.58	
総合	20	全体としてこの授業に満足している。		3.72	3.77	
				平均	3.72	3.75
				100点換算	93	94
【質問別得点】						
総括	<p>全体としての授業の満足度は100点換算93点で昨年より1点ダウンしていました。項目別で見ると、授業内容と構成に関しては93点（昨年と同じ）、教育技術93点（昨年よりマイナス2点）、学生の自己評価は91点（昨年よりマイナス1点）でした。グループワークは学生の満足度が高いですが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、その機会が激減しました。講義や実習スタイルの大幅な変更は要因の一つと考えます。学生自身の評価は昨年より全体としてダウンしているもののアップした項目もあり、コロナ禍において適応しようと努力していた学生の姿が反映していると考えます。しかし、領域間で比較すると昨年より評価がアップしている領域もあり、教育方法の工夫が重要です。自由記述からは相変わらず資料の印刷や板書の文字の大きさなど教材・教具に関するご意見がありました。引き続き講師の協力を求めています。新型コロナウイルス感染症の影響は今後も続きます。今年度の経験を踏まえ、学生の満足が高まる教育方法の工夫と教育力の向上が課題です。</p>					

【2020年度学校自己点検・自己評価を実施して】

1. 学校評価

2020年度の学校自己点検・自己評価の結果は図1及び表1の通りとなった。昨年と同様にⅧ地域社会/国際交流 IX研究が低い結果だが、全体的に昨年度よりは高い結果となった。現在、教育課程の評価を行いながら新カリキュラムの構築を行っている。そのため、昨年度の反省を踏まえて取り組み全体的に評価が良くなったと考える。昨年度より特に低い項目は次の2つのカテゴリーと内容である。

IV教授・学習・評価過程

- ・授業内容間の重複や整合性、発展性が明確になっている
- ・授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している

Ⅶ卒業・就業・進学

- ・卒業時の到達状況を分析している

IV教授・学習・評価過程については、昨年度の各自の教育活動を分析し、今年度の改善を図る。また、Ⅶについては、「卒業時に教育目標の到達度」と「技術の到達度」「技術の経験度」についてデータを収集しているが、分析が不十分という評価だった。分析内容を検討し改善を図る。

2. 授業評価

②総括 参照

3. 全体について

本校では自己点検・自己評価を教職員全員の評価とすべての学科目の授業評価を行っている。この自己点検・評価結果を踏まえ、事業計画を策定し取り組んでいる。

2020年度の事業計画は、

- ①1年次からの就職支援
- ②受験者の確保
- ③学生の教育充実及び国家試験対策
- ④新カリキュラム実施に向けた学則の改正及びカリキュラム編成
- ⑤新学籍システムの導入を行い教職員のワークライフバランスの整備
- ⑥授業研究等を行い教員の質向上を図る

とした。

昨年末からに続く新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための休校やそれに伴う分散登校等さまざまに工夫を行いながらの学校運営となった。感染予防行動への指導や感染リスクへの対応等を行い、状況に伴う急な変更も多く対応に追われ、さまざまに調整が必要となった。

事業計画についての報告

①1年次からの就職支援

学生が自分の将来像を持てるような就職支援を目的として、附属病院と連携して1年次から支援を行う計画を立案した。しかし、3年次学生への就職支援さえも全体では難しく、チューター教員と連携を取りながら卒業までの最終進路まで、支援はできた。各学年については次年度の課題となった。

②受験者の確保

実際の進学ガイダンスも従来の10分の1程度となった。

オープンスクールはWeb型と来校型の2つの方法で行い、のべ400名以上参加いただいた。受験者数は、昨年度と同程度の受験者だった。

③学生の教育充実及び国家試験対策

コロナ禍において、補助金等を活用してネット環境を整備し、対面授業と遠隔授業を導入した。また学内のPCのインターネット接続が整備され、活用が促進された。国家試験対策では外部講師の講義をオンラインで受講した。

④新カリキュラム実施に向けた学則の改正及びカリキュラム編成

学校における3つのポリシーを整備し、カリキュラム編成を行っている。

⑤新学籍システムの導入を行い教職員のワークライフバランスの整備

学籍及び入試システムの導入準備を行い、次年度から導入開始となる。

⑥授業研究等を行い教員の質向上を図る

福島県看護学校協議会における授業研究への参加と、学内での公開授業は予定通り行うことができた。

⑦全体として

コロナ禍においても、実習の8割以上は行うことができた。そのため、卒業生の到達度アンケート結果では昨年度と同様の結果を得ることができ、「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」の学生自己評価結果では「できる」は70.3%と昨年度の64.5%より高い結果である。

今後さらに「ICTを活用した教育」や「2022年度からのカリキュラム変更」を踏まえ、本校の教育理念である、命の大切さ・尊さを守る看護師、自ら考え行動する看護師、職業に自信と誇りを持つ看護師の育成をめざし、今後もさらに教職員一丸となってより良い学校づくりに取り組んでいきたい。

5 学校関係者評価

2021年5月14日 16:00から本校において行われました。

2020年の自己点検自己評価の結果を学校から説明し、概ね了承され、次のご意見等を頂いた。

- ・昨年度も自己評価の低いところ（地域社会・国際交流、研究）の具体的な項目について確認を受けた。昨年度の結果をもとに現在カリキュラムの構築に取り組んでいることに了解を得た。
- ・授業評価の結果について経年的にデーターを提示するとわかりやすい
- ・授業評価表の作成にあたって、参考としたものの提示と見直しの必要性の検討

今後の学校運営に取り入れてまいります。